安永七戊戌天　五升門

試臺　武陵

あらむの春とむかえいの年く
第ハセけしかよ来れる此春成
よ待こひ奥して

万歳やかしい春の暫く明も　月橋房　漢書
此門いれふこころ持たしむの春　女　十葉
持ふ日は算へあらるやそ川暦　芳雲館　分可

春奥

鶯のそ川ゆやこれいられしい　漢書

かれしく

橋ゆまいまと時ゆ御しる葉の日　文園
越えて来ることとあるに霞かれ　左来
藪垣のぞ川とは奥や梅のむ　百川
除くや門口まてきて来て庭り　松青
市中や春も春先くる葉賣　弄む

浅草なる新宿のみちまりも
今やまち暖のわとはなく暫く
机ゆ春浅へいは浅草なるまし
あらる

風いまいれしよ来るや窓の先　東海坊

酉　歳暮

生質の知くさに年の用意を
家族に帰りせぬ知なる俗れ
一重に来る春をそのしてて

酔しつて又そしたしかよく　月橋